


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>事業所の理念は作られており、それぞれの棟にも掲示してある。</p> <p>法人の理念(地域密着型サービスも含む)については年4回発行の法人通信を会員全員に配布するとともに公共施設等において多くの一般の方々に配布できるようにすることにより地域の中での支援体制を作るよう努力している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>毎月のスタッフ会議等を通し、理念の意味、意義を説明し、実現への努力をしていくことの申し合わせを行うとともに、日常生活場面においても介護従事者に話している。</p> <p>毎月のこぶし会議の時、全員で理念を唱和している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>地域の行事の参加には入居者の家族にも声かけし、参加して頂いたりして地域とのつながりを大切に法人で発行している年4回の通信は地域の方や家族の方たちにも手渡しし法人の考えを理解して頂くようにしている。</p> <p>毎月家族へグループホームのお便りを配布しているがその中へ理念を掲載していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>毎日買物や散歩に出かけて行き、散歩時の挨拶はかかさないうようにしているが、日常的なつき合いは出来ていない。</p> <p>隣人のボランティア協力なども多い。ふれあいサロンを開設することにより近隣の方々との日常的なふれあい、協力をさらに進めたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>自治会へは入会している。。地域の行事への誘いもあり、参加しており、地域の方のホームへの協力も行われている。</p> <p>地域の方にも出席していただく運営推進会議を年2回開催している。地域の方と入居者が気軽に関われるようホーム側から積極的に働きかけていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域福祉を考える地区懇談会を開いたり、町民対象に介護講習を行う等法人として地域貢献に取り組んでいる。</p>		<p>ボランティア活動の場としての受け入れをすすめたり、見学は広く受け入れている。このようなことから高齢者や家族の相談などに対応しているが、さらに地域貢献できるよう今後も定期的に取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回二度目の外部評価であり、最初の評価時の助言等は活かしてきている。</p>		<p>評価の意義や指摘事項について職員全員が共有できるような場を設定し改善していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は行っており、利用者のサービス向上に活かしていこうと取り組んでいる。</p>		<p>運営推進会議での意見を会議録にまとめ職員との情報共有化を図る。またさまざまな地域の団体の方との連携に生かしていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居にあたり市町村との連携を密にしている。又サービスの向上等についても必要な時は相談にのってもらっている。</p>		<p>定期的に別な会議を設定することではなく、日常的な情報交換は事務局や管理者を中心に行い連携し支援体制を作っていただくよう努力している。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>全員の職員が理解するまでには至っていない。</p>		<p>今後の職員研修で理解出来るようにしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日々注意を払い虐待がない様配慮している。</p>		<p>広く地域に開かれた運営をすることで虐待も防止されると考え今後も地域に根ざした運営を継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居や退去時等現場の職員も含めて家族や入居者の方と会い十分な説明や理解納得は図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は常に利用者からの意見や気持ちに耳を傾ける様にしている、又月1回町の介護相談員の施設訪問により必要な場面では利用者からの意見や苦情を聞いて頂き管理者や外部に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回各利用者のご様子お知らせの手紙や金銭管理の報告を郵送で出しており、面会時にはその都度暮らしぶりや健康状態等お伝えしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>システム的にはないが意見や苦情等その都度話せる場を設け意見を反映させる様にしている。</p>	<p>運営推進会議には家族の代表の方に参加していただき意見等をお話しいただいている。今後アンケートやご意見箱の設置など意見をより取り入れる体制を作っていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各ユニットにおける会議や全体会を通し職員の意見や提案を開く機会を設け、反映させるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>出来るだけ希望を聞いているが人数に限りがあるため難しい時もある。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの移動は利用者には大きな影響を与えてしまうのでダメージを防ぐ配慮は考えている。</p>	<p>利用者にとって何が良い配慮かを考えて行っていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の職員研修やグループホーム内での内部研修の他、外部研修等積極的に取り組んでいる。		今後も内外部の研修には取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会や事例検討会等研修の場を通して行われている。		他の施設見学等行っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年間を通して数回、個々に面談し、話をする機会は設けている。		職員の休憩所等改善策は模索中。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員研修や個人面談等を通してひとりひとりの意識改革が出来る様働きかけている。		さらに向上心を持って働き続けられる様より良い関係作りを構築したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階で見学して頂き短時間ではあるがグループホーム内で一緒に時間を過ごし、会話をしながら不安を取り除ける様おこなっている。又、何度でも話を聴く機会は作っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までのいくつもの不安なこと、問題点等は解決するまで聴く機会を作り相談に乗っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の機関との連携も含めておこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人のディサービスに通いながらグループホームに馴染んでいただいたこともある。又家族との面会を増やしたり電話で家族の声を聞いてもらったりして状況や状態に合わせた工夫はしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買物や散歩又地域の行事と一緒に行動を共にし喜びを分かち合っている。入居者の方の体調の良い時は掃除や食器洗い、洗濯干し等手伝って頂いている。		きりり畑で入居者の方達と一緒に収穫し、漬物の作り方や調理の仕方を教えて頂きながら食事作りをしたり、戦争中の生活の苦しかった頃の話等も聞かせてもらいながら過ごしている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の心身の状況に合わせ家族と連絡を取り合い受診をお願いしたり、行事に参加して頂いたりして、日常生活を支えて頂く様にしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族間のこととなると難しい所もあるが出来る限り状況に合わせて行うようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の頃は近所の馴染みのかたの面会も多かったが最近では面会も少なくなってきており面会に見えた時は一緒に散歩したり、馴染みの場所に出掛けてもらったりしている。		帰宅願望等もあり馴染みの方達との会う機会が実現されると、さらなる要望がでて不満が大となり対応しきれなくなる時が出てくる。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は常に入居者の関係に気を配り、必要と思われる時には職員が間に入り入居者の特性に合わせて不安定な状況を解消する様に努めているが認知の度合いも違い、難しい所もある。		気の合う入居者の方達とはそれぞれの棟と関係なく行き来し会話できる場を設ける様にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所間もなくは連絡を取り合い、情報交換を行ったりしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向は出来るだけ聞くようにしているが、集団生活の中では困難なことも多い。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん入居後も継続的に利用者や家族から今までの生活を聞かせて頂き把握出来る様努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアカンファレンスや毎日の職員の引継ぎ等で全職員個々の利用者の暮らしの現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回づつケース会議やミニカンファレンスを行い、意見を出し合い、時には家族と連携を取り合いながら介護計画に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低年2回介護計画を見直し作成しており、家族や本人(理解できる方のみ)に署名捺印をもらい同意して頂いている。	○	ケアの内容も介護職員と話し合い確認は行っているがプランの書式に落とし込みが出来ていないこともある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報やケース記録に記入し情報の共有化を図り介護計画に活かしている。	○	記録の重要性、必要性についてはさらに職員に周知徹底する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物内にあるサービスへのイベント参加、キッズルームに来ている子供たちとの交流や障害者や各ユニット間での交流等本人や家族の状況も含めて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの参加、消防署の協力、陽だまりサロン等の文化施設への交流等地域資源との協働を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向に合わせ家族が出来ないサービスについては助け合い活動や福祉有償運送サービス利用などによりできるだけ希望が尊重されるようにしている。又入院時の病院との関わりの中での相談や福祉用具利用時のサービス事業者との打合せ等の支援も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの会議等には参加しているが個々の利用者のことでの相談等は今の所行っていない。	○	家族との連携が取れない等利用者によっては今後包括センターとの協働は必要になってくると思われる。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	喜楽里ではかかりつけ医は本人及び家族の希望となっており、受診は家族による通院介助をお願いしているが、緊急時や家族が対応出来ない時は職員が同行している。どちらにしても日常のホーム内での健康状態は家族や主治医に連絡できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医への受診は過去に一度職員が本人と家族に同行して行ったことはある。	○	今後認知症に詳しい医師との関係を築くためホームの方から働きかけを行う事が必要と考えている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内には看護職員はいないが、ディサービスにいる看護職員には相談にのってもらっている。	○	地域の看護師の定期的な訪問巡回等考えていきたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中には家族や病院側と出来るだけ多く情報交換を行い退院時にむけてスムーズに受け入れ出来る様支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在終末期に向けた対応はホーム内では無理であるが、重度化した場合、早めに家族と話し合い今後のあり方を家族と共有する様にしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在十分な体制ではなく、喜楽里に於いては対応は困難である。	○	今後重度化や終末ケアに向けて体制作りが必要であり、考えていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	過去ホームから自宅に戻ったり特養等の他の施設に入ったりした事があるが、家族によっては十分な話し合いが出来たり出来なかつたりと色々でありダメージを防ぐまでには至っていない。	○	住み替えには出来る限り相談にのっていききたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりのお尊厳を守れるよう言葉かけや対応には充分気をつけている。</p>	<p>○</p> <p>言葉かけや対応についてはさらに充分注意するよう全職員に働きかけていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の思いが自由に表出できるよう又自己の決定が出来るよう心がけているが、職員によってはまだまだ不十分である。</p>	<p>○</p> <p>利用者の方が自分の感情表現を自由に表出出来る様な支援を行えるよう、介護の日常生活の中で職員に働きかけていく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活を大切にし、支援するように努めている。利用者の状況も毎日変化し、認知症の程度も違うのですべての人に満足してもらえているかは必ずかしい面もある。</p>	<p>○</p> <p>今後も利用者の希望をできるだけ取り入れ、安全安心に暮らしていただけるよう努めていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>充分とは云えないが一人ひとりの今までの生活の中で築かれた習慣や意識に配慮して支援するよう心がけている。</p>	<p>理容師、美容師により訪問理美容も実施しており、希望者は利用している。福祉有償運送サービスなども希望すれば外出可能</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は食材をお願いしている町の販売所の管理栄養士が作成している。調理は入居者も共に行い、買物も散歩をかねて出掛けたりしている。</p>	<p>ホームの敷地内にボランティアさんによる農園があり、季節の食材の収穫、調理などを通し、利用者に食事を楽しんで頂いている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>基本的にはお酒もタバコも楽しめることになっているが、現在タバコを吸う人はいない。お酒に関しては毎晩少量(ビール)飲んでいる人がおり、お酒の出る行事等には他の入居者も飲んだ事がある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターン習慣等排泄のリズムを把握し行っているが夜間等難しい人もいる。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は設定せずひとりひとりの希望に合わせて入浴していたが、時間や利用者の状況、スタッフの人数等で楽しめるまでには至っていない時もある。	○	他のユニットなどとの協力により入浴をもっと楽しめるような支援を考えていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて対応し居室にこもりきりにならないようにすると共に必要な休息はとれるよう働きかけるようにしている。		
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	不十分ではあるが、入居者それぞれの得意なこと、好きなことがあるので入居者に合わせて出来る事をして頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で持つ形は取っていないが使う支援はされている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩等外出は行っているが、その日の希望にそって一人ひとり出かけられるまでには至っていない。	○	希望をかなえられる様努力はしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	町内外のイベントへの参加はできるかぎり支援している。(コンサート、祭り等)家族や知人との個別の外出や外泊、旅行なども希望に添って行っていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方もおり、自分で家族と連絡しあっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	棟の玄関には面会簿が置いてあるが家族や友人等馴染みの人が何時でも自由に訪問出来るようにしてある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことによる入居者の弊害やケアがさらに困難になりうることを職員は認識している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時より昼間は鍵をかけない事を申し合わせていたが入居者の状況の変化により時間によっては玄関の鍵をかけておくこともできてきている。	○	理想は分かっているが入居者の変化により難しくなっている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は絶えず入居者の居場所を確保する様にしており原則フロアーには必ず職員がいて入居者の不安や危険がない様心掛けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に合わせてその都度行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の転倒には十分に注意し、誤薬はないよう二人対応で服薬終了迄チェックし確認している。行方不明については一度あったため反省材料とし事故防止や事故後の対策を話し合い、連絡網等作成した。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の救命救急法の研修を全職員が一度受講している。	○	一度だけでなく定期的に行いたいと考えている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災による避難については1年に1～2回全員で消防署の避難訓練を行っている、地震や水害等に備えた防災用品専用倉庫を設置し、現在備品について検討中である。	○	地域の人々との協力体制を考えていかなければならないと考えている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時には話しているが入居後も一人ひとりの起こり得るリスクについては家族に話し対応策も相談し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタル測定と週1回の体重測定、顔色、入浴時の身体状況等観察し、対応に結びつける様情報を共有しあっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から出ている薬の説明書はファイルに閉じ職員は目を通す様にしており、又申し送りノートにも記入する事になっている。症状の変化、観察は行うよう努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については気をつけており便秘予防の食事等心がけているが排便の確認が難しい。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに食後の歯磨きの声かけと準備を行い、場合によっては一緒に付き添ったりしているが歯磨きの仕方がわからなくなってしまった方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立一日1600Kカロリーの食事を摂っており、栄養バランスは充分と思われるが水分摂取が充分でない人がいる為声かけや摂取の仕方に工夫している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等）	外出後の手洗いうがいの励行、インフルエンザの予防接種をおこなっている。うがい、手洗い、清掃、消毒などのマニュアルに沿って実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用済み調理器具は毎日消毒している、新鮮な食材も毎日運ばれてきており安全管理には十分に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	職員の玄関とグループホームそれぞれの棟の玄関は別になっており出入りには安全第一としている。又春や夏には植木を置いたり草花を飾ったりして暖かい雰囲気作りを考えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に合わせた入居者の手作りの作品を飾ったり、家族から頂いた季節の花や人形等落ちついて穏やかに毎日を過ごせる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには3人掛けのソファを置きテレビを見たり、廊下の突き当たりには木のベンチを置き、親しい仲間同士でおしゃべりが出来る様自由なスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものや好みのものを持ってきて頂ける様説明している。又足腰の不自由な方には手すりをつけられる様助言も行っており、それぞれ個性のある居室が作られている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日数回は窓を開け換気を行い、又室内の換気扇等、必要な時は常時利用し、気になる臭い等消臭剤等も使い、臭いや換気には充分注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中には段差のない様作られておりトイレも車いすで入れるようになっている。又手すりも必要な所には充分つけてあり、入居者の方が安全に自立した生活が送れるようにしてある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は一人ひとりの個性に合わせて対応し、入居者の方の混乱や失敗を少しでも軽くし、少なく出来る様早めに察知し本人の出来る事への支援を行うようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには入居者の方が楽しめる様野菜を収穫したり、草花を植えたり出来る様畑や花壇の場所があり、秋には芋掘りの行事も組まれている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
		<input type="radio"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
		<input type="radio"/>	少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	あまり増えていない
		<input type="radio"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所として開設3年目なので日々試行錯誤ですが職員一同利用者の生活の安心安全を第一に家族の方々への支援にも重点をおき、努力しています。NPO法人として制度外のサービスも行っており、地域の方々へできるだけ情報提供させていただくことにより、子供からお年寄りまでお互いに交流できるあたたかな地域作りを目指しています。グループホームも地域の方々にも理解され、協力もいただいています。これからも認知症をかかえるご本人とご家族を地域全体として自分のことのように支えていく仕組みづくりをめざし、職員の資質向上や運営の充実を図っていきたくと考えています。2007年毎日介護賞受賞しました。